

鋼板、取引価格が一段安

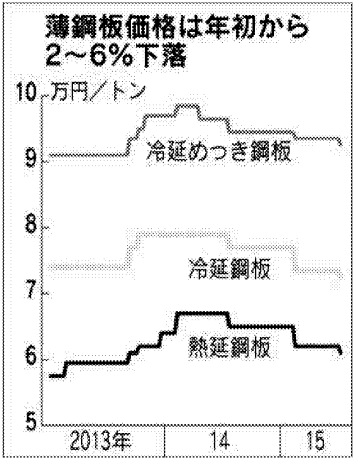
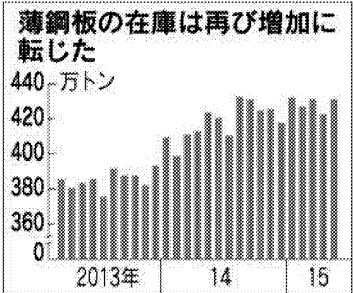
需要鈍く減産追いつかず

家電や建設資材などに使われる鋼板の取引価格が一段と下落した。国内需要の鈍さを背景に在庫調整が遅れ、流通市場で安値取引が増えた。鋼材の過剰供給が続くアジアから安価な輸入品の流入が続ぎ、価格競争が強まった。鉄鉱石など原料価格も下がり、鋼板を加工した建材などにも値下げ圧力が加わっている。

輸入品流入も下押し要因

東京地区の一般流通市 値が2千円切り下がった。加工性の高い冷延鋼材では機械部材などに使った。加工性の高い冷延鋼材。熱延鋼板のベースサイ 板（1・6ミ）は同7万

ズ品（厚さ3・2ミ）が 2千7万3千円で千円 1ト6万76万2千円 ほど下落したほか、表面 調整が遅れている。5月 と、この1～2カ月で上 処理した電気亜鉛めつき 末の薄鋼板3品種のメー



カー・流通在庫は約431万トと前月比2%増えた。5月は営業日数の少なさもあって出荷が伸び悩んだ。販売が振るわない問屋間で鋼板の安値取引が目立っている。自動車や建材向けを中心に実需も鈍い。鋼板の加工業者で組織する全国コイルセクター工業組合によると、5月の加工量は107万5千トと前年同月を9%超下回った。乗用車8社の5月の国内生産台数は前年同月比17%減。この影響で「鋼板加工の稼働率も下がっている」（同組合）。

安価な輸入鋼板の流入も価格の下押し要因となっている。過剰生産が続く中国製の熱延コイルなどが東南アジアなどに安

く輸出され、国際価格が下落している。「採算悪化に窮した韓国や台湾メーカーが日本への売り込みを強めている」（鋼材商社）。熱延コイルの5月の輸入単価は1ト5万5500円程度で、2014年平均と比べて約8%安い。薄鋼板の流通は問屋を経由した「店売り」とは別に、家電メーカーなど特定の需要家や加工業者に納品する「ひも付き」がある。ひも付き取引の価格は鉄鉱石など原料価格の変動の影響を受ける。今年前半の鉄鉱石価格の急落を受け、半期ご

とに決める家電向けの鋼板価格も4～9月期は引

き下げが大勢だ。ただ原料相場は乱高下しやすく、10月以降のひも付き価格は不透明感が強い。鉄鋼メーカーは4月に本格化した減産を7月以降も継続している。当初

国内の薄鋼板価格は昨

年夏から下落が続き、年

初からの下げ幅は2～6

%に達した。鋼板を加工

して作る溶接鋼管や軽量

形鋼といった建材も値下

がりしている。建設業界

からは「需要が向上くと

見込まれる秋以降も資材

価格が大きく上がるとみ

ている」（大手ゼネコ

）との声もある。